



リスクモンスター株式会社

企業間取引における与信管理のセキュリティを支える RSA® SecurID®

日本で初めて、インターネット上で継続的な与信管理の代行サービスを開始したリスクモンスター株式会社(以下リスクモンスター)。東京商工リサーチの所有する企業情報をベースに、企業内審査のアウトソーシングサービスを提供している。実際の企業間取引はもちろんのこと、リアルタイム性が強く要求されるeマーケットプレイスに対し、同社はスピーディかつ安価に情報配信を行う。最も秘匿性の高い企業情報を取扱うこのサービスに、RSA SecurIDを導入した経緯ならびに、eビジネスにおけるセキュリティの重要性について、代表取締役社長の杉山和彦氏、取締役の藤本太一氏、菅野健一氏にお話を伺った。



eビジネスの普及で加速する 与信管理ビジネス

現在のあらゆる企業活動において、取引先企業の経営状況を把握することは、重要であることはいうまでもない。昨今の厳しい経済環境のなかで、自社の業況もさることながら、取引先の経営破綻などによる影響もまた少なくない。それはeビジネスを展開していくうえでも同様だ。eマーケットプレイスに代表される自由な電子商取引への機運が高まる一方で、「顔の見えない」相手に対する与信の問題が市場成長の障害になることが明らかになりつつある。

こうした社会背景を受けて、リスクモンスターは2000年9月に誕生した。「与信管理は企業にとって“重要性は分かっているが良い方法が分からない”“多額のコストはかけられない業務です。当社の要となる審査ノウハウは、長年にわたる商取引に係る企業分析データや事故データなどを全て解析し、格付モデルや倒産確率として蓄積したものです。安く、早く、簡潔な与信管理の手法を私たちが提案する

ことで、あらゆる企業間取引の活性化を図っていきたいと考えています」と、杉山社長は語る。

同社が現在提供するサービス、「e-与信ナビ」は、同社の基本となるサービス。東京商工リサーチの有する100万社以上の企業データをもとに、与信対象企業の企業概要データ、格付情報、与信限度額などについて、与信リスクやコストを加味したデータの提供を行う。また、「e-管理ファイル」はe-与信ナビの拡張版で、企業内審査のアウトソーシングという位置付けのサービスだ。取引先企業の信用状態を毎日ウォッチし、自社の取引限度額などをあらかじめインプットしておき、変動があればすぐに電子メールで通知するなど、取引先企業の経営動向を常に把握できる。

リスクモンスターの取扱う情報は、各会員企業の取引相手と経営状況の全てが集約される、いわば企業の「審査部」そのもの。顧客情報の取扱いには万全のセキュリティが求められていた。そこで「e-管理ファイル」へのアクセスに対して、導入されたのがRSAセキュリティのRSA SecurIDなのである。

リスクモンスター 株式会社

総合社の日商岩井、ニチメンと国内最大級の信用調査企業である東京商工リサーチが中心となり、2000年9月に設立。顧客企業の「e-審査部」として、審査組織の与信管理を経済的、かつスピーディに一括して引受けるサービスを開始。



代表取締役社長
杉山 和彦氏



取締役
藤本 太一氏



取締役
菅野 健一氏

RSA SecurID 導入のポイント

- ・インターネットとブラウザ環境という、選ばない環境で利用可能なユーザー認証
- ・60秒ごとにアクセスコードが変化する、ワンタイム・パスワード
- ・暗証番号 + 認証トークンという目に見える形での、分かりやすい二重のセキュリティ

ネットワークとユーザーを守る
セキュリティの要は SecurID
「リスクモンスターの構想が固まった時点で、顧客情報の保護に SecurID を用いることを決めていました」システム導入にあたって藤本氏は当時を振り返る。「リスクモンスターのサービス方針は一貫しています。与信管理に特化したシンプルなサービスを、できるだけ低いコストで提供していきたい。それはセキュリティについても同様のことが言えます。お客様は1日数回、サービスを利用されるので、当然面倒な手続きを強いるわけにはいきません。どのような利用環境にも対応できてお客様が使いやすい、という点をセキュリティにも求めていました。お客様にすぐに覚えていただけて、それでいて確実に機能する SecurID は、まさに当社のコンセプトに合っていました。実際に、我々の狙いどおり、お客様から使い方が分からないというお問合せは1件もありません」

RSA SecurID の特徴は、何よりその高い利便性にある。クレジットカードサイズの認証トークンに表示される6桁の数字と暗証番号を入力して、サーバー側で本人確認を行う。指紋認証のような専用機器を必要としない点も、あらゆるPCの利用環境を想定したうえのことである。毎分変わるワンタイム・パスワードは、固定パスワードのように番号を盗まれる心配がない。万一認証トークンを紛失しても、暗証番号なしでは認証トークンとして機能しないなど、二要素によりユーザー認証が行われるため安全性が確保される。

「SecurID を持つことが、顧客企業内においてセキュリティ意識の向上に役立っている部分も多いと聞きます。刻々と変わるパスワードに、私たちも安心して顧客企業の情報を管理することができます」と、菅野氏は語る。

「e-管理ファイル」サービスは、SecurID を持っていなければ、たとえ社員であっても、メンテナンスはできないと徹底している。リスクモンスターの考えるセキュリティの

形として、SecurID が十分に機能しているのだ。

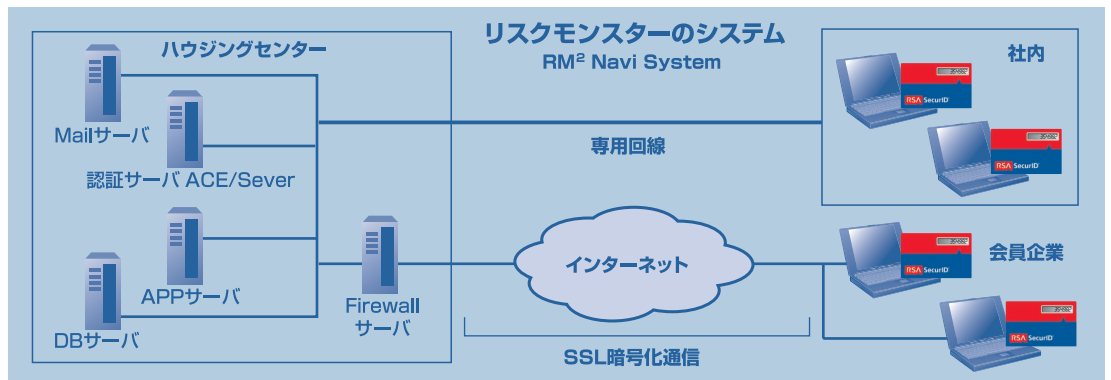
信用情報の管理には セキュアな環境が欠かせない

システム構築からサービス開始までにかかった期間は、わずか2ヶ月だという。これにより、他社に先んじて日本初の与信管理サービスを始めたビジネス上のアドバンテージは大きい。短期間で運用にこぎつけた秘話を杉山社長に伺った。「早期にセキュアな環境が構築できたことの意義は大きいですね。SI 業務全般を委託したテクマトリックス株式会社からの推薦もあり、Eコマースサイトの開発・運用プラットフォームとして SilverStream 社の製品、ファイアウォールは Borderware 社の製品を選びましたが、これらと SecurID のバックエンド認証サーバーである RSA ACE/Server は、相互運用性が保証されていました。つまり、実証テストが全く不要だったのです。システムは、メールサーバー、認証サーバー、アプリケーション・サーバー、データベースなどが複合的に介在するので、それぞれの相互運用性があらかじめ保証されていることで、稼働開始までの期間が短縮できました」

「企業にとって自社の与信管理に関する情報が他に漏れることは、絶対あってはならないことです。つまり、我が社のビジネス・モデルを考える上で、セキュリティは欠かせないのです。それを分かりやすい形で提供してくれる SecurID に期待しています」

リスクモンスターでは、大阪商工会議所が中心となって全国展開を始めたビジネスポータルサイト「ザ・ビジネスモール」と業務提携を行うなど、EC 市場支援に向けた動きが盛んだ。

総合商社が培ってきた経営資源ともいべき与信管理ノウハウを生かした、セキュアで新しいビジネス環境の提供は、他の企業の文化を変え、e ビジネスの速度を飛躍的に向上させることが予測される。リスクモンスターのこれからの活躍に期待したい。



RSAセキュリティ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビルディング
エンタープライズ営業本部 TEL.03-5222-5230
http://www.rsasecurity.co.jp info-j@rsasecurity.com

お問い合わせ先